

2012
1.5



中小企業家しんぶん

毎月3回発行
5日、15日、25日
第1207号

発行：中小企業家同友会全国協議会(略称 中同協) 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-16 市ヶ谷KTビル3F 電話03-5215-0877(代) FAX.03-5215-0878
定価(送料共)1ヵ月250円/年間3,000円(会員の購読料は会費に含まれます) 振替00120-1-74548
バックナンバー検索 <http://shinbun.doyu.jp/> ユーザー名 shinbun パスワード Mdxwfy4

今号の紙面から

- 2~3面 新春座談会
- 4~5面 第6回中小企業地球環境問題
交流会特集
- 6面 本の紹介/40周年記録集発刊(京都)
- 7面 わが社の強みは??
(㈱二軒茶屋餅角屋本店(三重))
- 8面 各地の話題(沖縄・岐阜・島根)

強い絆のもと、われら断じて滅びず!

中小企業の力で、地域復興と日本経済再生を



日本で唯一の赤瓦のお城、会津若松市の鶴ヶ城①、いわき市の復興のシンボルともなっているスバリゾートハワイアンズのフラガール②。それぞれ第42回全研後に行われるエクスカージョンの見学先となっています。



一千有余年の歴史を経て、福島県浜通り地方に今も受け継がれる伝統の祭り「相馬野馬追」

私たちは昨年、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故という未曾有の危機を経験しました。その中で、多くの尊い命が失われ、多くの方々が家や会社をなくし、故郷から離れることを余儀なくされました。その一方、私たちが人と人が連帯し助け合うこと、

励まし合うことのすばらしさ、「絆」の大切さを改めて学びました。日本と地域の再生・復興の担い手として、中小企業への期待も一層高まっています。全国の同友会の仲間との「絆」をさらに強め、決意も新たに地域復興と日本経済再生をすすめていきたいと思います。

第42回全研in福島で熱く語り合いました

全国の同友会の皆さま、あけましておめでとございませう。

あの三・一一の東日本大震災から一周年となる二〇一二年三月八〜九日の両日、第四十二回中小企業問題全国研究集会(以下、全研)を福島県で開催いたしました。メインテーマには、「震災一年、強い絆のもと、われら断じて滅びず!」中小企業の力で、地域復興と日本経済再生を」と掲げました。大震災からの復興と、中小企業家としての地域経済再生への決意が込められています。

今なお復旧復興への足取りはほど遠く、これからがまさに正念場であります。とりわけ当福島県は、震災、津波に加え、原発事故、さらには風評被害という四重苦の中にあり、震災は「現在進行形」のままであります。一時は全研の開催そのものの断念も検討しましたが、全国同友会からの熱烈な全研福島開催のエネルギーに心を燃やして決断いたしました。

「中小企業は社会の主力」と謳われた中小企業憲章の理念と「労使見解」の精神に則り、「雇用を守ろう」「地域を再生しよう」と多くの同友会員が福島県内の各地域で奮闘しています。全国同友の皆さん、ぜひ元気な福島、元気な福島の会員を見にお越し下さい。福島で熱く語り、学びあい、全国同友の連帯の絆を深め合います。

全研開催を通して、この島(株)サン・ベンディング福島代表取締役) 千葉政行 第四十二回中小企業問題全国研究集会 実行委員長

第42回中小企業問題全国研究集会
震災1年、強い絆のもと、われら断じて滅びず!
~中小企業の力で、地域復興と日本経済再生を~
特別企画/パネルディスカッション
「私たちは負けない!」
地震、津波、原発、風評被害の四重苦を乗り越えて!

日程：3月8(木)~9日(金)
場所：ホテルハマツ(ほか) (福島県郡山市)
参加費：2万円(宿泊費別)
主催：中小企業家同友会全国協議会
設営：福島県中小企業家同友会
*申し込みは所属の同友会事務局まで

円卓

二〇一二年の新年をいかがお迎えでしょうか。昨年の三・一一の重い課題を背負いつつ

も、雄々しく立ち向かう被災地の皆様は力不足をお詫びしつつ連帯のごあいさつを送ります。▼大震災後の全国の仲間の支援活動は、時々刻々変化する現地の状況をどうえながら、生活物資、義援金、ボランティア活動など、多岐にわたって展開されてきました。「邪魔になるのではないかと懸念しつつ、現地訪問も相次ぎました▼そこで私たちが感得したものは、地元の方々の同友会精神あふれる中小企業家魂の発露でした。社員の命を守り、雇用確保のため企業再建に立ち向かう姿。行政や他団体ともスクラムを組み、復興プランを提言し、地域再生のため知恵と力を振り絞っての活躍。どれも私たちが感動させ励ます側が逆に励まされました▼被災地で頑張る会員の共通点。経営指針をもとに全社一丸経営をつくり上げる努力をしてくれました。経営理念を軸に自社の立ち位置が明確です。地域と共に生きる自社の使命を労使が共有してこそ危機の時、力を発揮する。まさに同友会企業の出番なのです。被災地の貴重な教訓に学び、支援活動をさらに強め、同友会運動の新たな歴史を刻みましよう。